

1. 景気動向

今回の調査によるD I値（好転と回答した数から悪化と回答した数を引いた値）は、サービス業でわずかながら改善の傾向が見られたが、その他の業種では全てマイナスポイントが増加しており、再び景況の悪化が顕著になってきており、当市の景況は依然厳しい状況が続いている。特に、建設業は季節的要因も大きいと思われるが、前期に比べ著しく悪化しており、先行きが懸念されるところである。

	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	1~3月	4~6月	1~3月	4~6月	1~3月	4~6月	1~3月	4~6月	1~3月	4~6月
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高	 45	 40	 29	 31	 25	 25	 57	 42	 33	 19
採算	 60	 35	 31	 26	 41	 50	 51	 48	 38	 28
資金繰り	 40	 35	 14	 19	 25	 16	 40	 42	 10	 20
業況	 52	 23	 32	 25	 8	 8	 57	 51	 23	 15
経営上の 当面する 問題点	1位	請負単価の低下・上昇難	需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞	
	2位	官公需要の停滞	製品(加工)単価の低下・上昇難		販売単価の低下・上昇難		購買力の他地域への流出		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	民間需要の停滞	原材料価格の上昇		仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		大企業の進出による競争の激化	
業種別 コメント	<p>前期に比べて業況は、14ポイントのマイナス数値となった。冬場という季節的な要因があると思われるが、経営上の問題点のトップに「請負単価の低下、上昇難」があげられており、受注が少ない中での取引条件が厳しさを増している。また、官公並びに民間需要の停滞による受注減も影響して、特に厳しい調査結果となった。来期の見通しは、いずれの設問項目において今期よりも改善するとの見方が高く、その原因は春先の受注に頼っているものと考えられるが、依然として厳しい経営が続くものと予想される。</p>		<p>D Iのマイナス値はやや減少したが、業況はほぼ横ばいで推移している。しかしながら、依然業種間、企業間の格差があり、製造業全体としては未だ不況から脱却しきれない状況が続いている。経営上の問題点に、今回始めて「原材料価格の上昇」があげられているのが大きな特徴であり、その対応に苦慮していることが窺える。来期も横ばいで推移するとの見方が多いが、生産設備投資を予定している企業割合が若干増加していることはやや明るい状況である。全体としては、急激に悪化することはないと思われるが、厳しい状況に変わりはないとの見方をしている企業が多い。</p>		<p>前期は全体的に改善傾向が見られたが、今期はどの項目も悪化となった。特に資金繰りに関しては前期に改善し、今期への見通しも明るかったが、今期は大幅にD I値がマイナスという結果となった。このような傾向から、前期からの業況の回復は一過性のものであり、本格的な業況の回復はまだ時間がかかるようである。また経営上の当面する問題点には変化がなく、依然として厳しい企業間・価格競争は続いており、最近の流れとして小売業やメーカーなどの流通ルートの見直しなどの影響も出ていると思われる。</p>		<p>今期は、稼働日数も少なく、降雪などの天候要因や年末年始の商戦を終えての不服感から個人消費が低迷しており、全体的にD I値が悪化している。差別化商品に動きは見られるものの、春先の衣料全般の動きは低調との声もある。来期は、新入学シーズンでの個人消費の伸びへの期待感から、売上など改善の兆しがあるものの、先行き不透明な経済情勢から厳しい見方が多い。他店との差別化することにより、消費者にとって魅力ある店づくり、品揃えへの取り組みが今後の課題と思われる。</p>		<p>新年会などの需要低迷や季節的要因も影響して消費マインドも冷え込みにより、前期に引き続き全体的に低調な動きで、D I値も横ばい状態が続いている。来期は、歓送迎会シーズンやGWによる客単価の上昇への期待感から、売上高、採算、業況などに改善が見られる。消費者の視点に立った独自サービスの構築が今後の課題と思われる。</p>	

*表中の天気図はD・Iを以下のように分類したものです。

				
とくに好調 (50 DI)	好調 (25 DI<50)	まあまあ (0 DI<25)	不振 (25 DI<0)	きわめて不振 (DI<25)

当所では分析にあたってD・I（好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値）を採用しました。